

愛媛支部

2017年に愛媛で開催される、第17回全国障害者スポーツ大会の情報支援ボランティアリーダー養成が、今年7月から始まりました。ひめ通研も養成の協議会にしっかりと関わり頑張っています。受講生は、県内から集まった核になって頂く約50名の仲間です。8月は「手話実技・基礎編」のうち、歓迎・アナウンス・会場案内・観光などでよく使われる手話表現を、映像を交えながら学びました。

その他には、宇和島の牛鬼祭り、新居浜の別子銅山など、また、食べ物では、じゃこてん、タルトなど、受講者の皆さんと知恵を出し合いながら、一つ一つ丁寧に確認し学んでいきました。

ボランティア養成のテキストも、どうすれば教えやすいか、分かりやすい表現はどうすればいいかなど協議しながら学んでいきました。大会終了後の手話人口は確実に増えていると思います。理解者を増やす取り組みに、きっと弾みがつくことでしょう。この大会、せっかくなので皆さんと大いに楽しみたいと思います。



香川の取り組み

香川支部

今回は2回目の「あさいと」ということで、香川の通研の取り組みについてご紹介いたします。聴こえない人の団体で、(公社)香川県聴覚障害者協会(略して聴障協会)があります。何年か前までは「ろう協」と呼んでいました。以前から言われていますが、通研と聴障協会はまさに車の両輪です。昨年から、2団体で合同学習会を開催することになり、今年も8月に開催しました。兵庫県から小林 泉氏をお招きし、昨年に引き続き「手話言語条例」について共に学びました。当日は61名(健聴19名・ろう42名)の参加があり、いかに皆さんが関心を持っているかを痛切に感じました。

香川では、今年から手話言語条例検討委員会を立ち上げ、両団体から委員が集まり会議を開いています。そこでは、(一財)全日本ろうあ連盟のモデル条例や、他県の条例を参考にしながら、条文の読み合わせ等を行いながら進めています。当り前のよう様々な場所で手話が見られる日が来るのが、香川の願いです。



あさいと 基礎

高知支部

我がとさ通研は、夏の大学学習会を7月19日(日)に開催しました。講師は京都の全通研事務所所長 浅井貞子氏。テーマは「全通研ってどんなところ?」です。

参加者は27名、うち1名は未会員です。新規入会に繋がりたいと思います。

講演は全通研の歴史、取り組みや研究活動など豊富で2時間では短いと感じる程でした。会員のアンケートを見ますと「全通研はちょっと遠い存在に感じていたが、創設時からの諸先輩の活動の結果、現在の体制が出来た事が分かり良かった」「個々の自覚の大切さ、ビジョンを意識して活動していきたい」など講師の話聞いてそれぞれが感じた事をご自分の言葉で書いてくださり、その内容は私達役員が欲しているものでした。「全通研の活動は止まっちゃいけない」の言葉を胸に新たに活動を続けたいと思った一日でした。



<徳通研一泊研修会>

毎年恒例の一泊研修会は、各地域班の持ち回りで

徳島支部

で行っています。今年は東班(北班合同)が担当し、9月12日(土)~13日(日)、兵庫県南あわじ市にある「サンライズ淡路」で開催されました。

「徳島のろうあ協会や徳通研の歴史を語ろう」と題して、地元のろうあ運動や活動について学習し、親睦会では『飲みニケーション』よろしく、おおいに語り合いました。

翌日は、特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷を見学し、入所者お二人のご自身の人生についての『語り』に魅了されました。



大矢施設長からは、手話や様々なコミュニケーションの共有・保障のもとで一人ひとりを大切に共に生きる大切さを、頭の理解だけでなく、しっかりと心に感じ取ることができ、充実した研修会となりました。